

令和6年度 学校評価 総括評価表

徳島県立みなと高等学園

自己評価				学校関係者評価		次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
人権教育の推進	<p>【学校目標】 生徒一人一人の人権を尊重した教育を徹底するとともに、自他を大切にできる態度の育成及びいじめなどの人権侵害を許さない人権感覚を育む。</p> <p>①生徒がお互いの人権や個性を認め合えるような環境を整え、いじめの早期発見・早期対応に努める。〔生徒指導・人権課〕</p> <p>②生徒人権委員会活動や「中高生による人権交流事業」への参加を通して、人権意識の高い生徒の育成に努める。〔生徒指導・人権課〕</p> <p>③生徒が思いや不安などを安心して大人に相談できる経験を重ね、レジリエンスの高い人格形成を目指す。〔生徒指導・人権課〕</p> <p>④生徒が安心して学校生活を送れるように、校内の相談支援体制図を活用し、他の校務分掌とも連携してサポートできるように校内の支援体制の充実を図る。〔支援・研究課〕</p>	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定)		
		<p>①教職員による生徒の「さん付け呼名」「丁寧な言葉遣い」の共通理解を年3回行い、お互いの確認を行う。いじめに関するアンケート調査を行う（年間3回程度）</p> <p>②南部ブロック生徒部会や「中・高生による人権交流事業」へ参加する。（延べ5人程度）</p> <p>③個別生徒面談（ゆるとーくウィーク）を年2回以上実施する。</p> <p>④校内の相談支援体制図を基に、生徒への有効な支援につなげるため、要望があれば心理検査等を実施したり、他の校務分掌とも連携したりしてケース会議を開催する。職員が共通した指導を行えるよう、気づきのデータベースや学年会、部会をとおして、職員間の共通理解を図る。</p>				
		活動計画	活動計画の実施状況			
		<p>①いじめ防止プログラムを実行し、予防学習の充実に努める。通学オリエンテーションや人との関係性に関するオリエンテーションなど年度初めだけでなく必要に応じて実施する。</p> <p>②人権委員会の一環として、南部ブロック生徒部会や「中・高生による人権交流集会」に参加し、他校生と対話を通して人権意識を高める。</p> <p>③「話を聴く」スキルの研修を教員が重ね、受容的に聴くことができるようにする。</p> <p>④-1特別支援教育コーディネーターの統括のもと各学年の支援・研究課員が学年主任や部長と連携して、学年会等での様々なニーズの把握に努める。必要に応じてケース会を開き、対応策を共有できるようにする。</p> <p>④-2スクールカウンセラー事業を活用する。相談すること、話をすることに生徒や教員が慣れる機会となるよう、予防的カウンセリングの必要性を広報する。</p>				

キャリア教育の充実	【学校目標】 生徒個々の資質や適性に 職業能力や意欲等を高める指導を系統的・組織的に実施し、社会的・職業的自立に結びつける指導を推進する。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定)
①各種技能検定にチャレンジすることで、技能の習得を図るとともに、働く意欲や態度を育て、さまざまな場面で技能が活かせるように取り組む。 〔支援・研究課〕	②進路パスポート（「就労パスポート（厚生労働省）」を本校用に作成しているもの）を活用し、生徒一人一人の適性や能力に応じた就業体験を実施するとともに、生徒・保護者、関係機関等と共通理解を図り、最適な進路選択ができる。〔進路指導課〕	<p>①とくしま特別支援学校技能検定の4分野（ビルメン、接客、介護、ICT）に参加する。ビルメンテナンス分野でアンケートを実施し、80%以上の生徒から「役立った」という回答を得る。</p> <p>②-1 就業体験2回以上。進路説明会1回（各学年の保護者対象）。拡大進路相談（2年生の生徒と保護者対象）を個別に実施。進路便りを年間12回発行する。進路パスポートを用いての振り返りを行い、年間2回以上の更新を行う。</p> <p>②-2 支援・研究課と指導助言の大学の先生の協力アドバイスを得ながら、本校に合った進路パスポートの作成・活用マニュアル、活用スケジュールの作成に取り組む。</p> <p>③令和5年度卒業生の進路先（県内）を全て訪問する。</p> <p>④保護者が進路や卒業後の生活について研修する場を年2回以上設ける。</p>		
③電話連絡・職場訪問を行い、適宜卒業生へのアフターフォローを実施することにより、進路先での定着を図る。〔進路指導課〕	④就業についての知識や理解を深め、保護者が進路や卒業後の生活について研修する場を提供する。 〔総務・環境課〕	<p>活動計画</p> <p>①とくしま特別支援学校技能検定の4部門に生産サービス科と流通システム科の生徒を中心に参加して授業の成果を発揮する。年度末に日常生活や現場実習等で、取得した技能が活かされたかアンケートを実施する。</p> <p>②関係機関等と情報交換を行いながら状況を把握し、進路指導課が中心となって、HR担任や保護者、事業所等と綿密に連携して就業体験を計画・実施する。進路パスポートを用いて実習等を振り返りながら得意不得意等を整理し、自己理解を促進し、本人保護者と共有しながら自分に合った進路選択と進路決定が出来るようにする。</p> <p>③定期的に卒業生の進路先を訪問するとともに、進路先事業所や支援機関から状況を確認しながら適宜対応し、必要に応じて関係機関を交えたケース会議を実施する。</p> <p>④保護者対象の事業所見学会を実施する。障害基礎年金の申請について講師を招き、研修の機会を設定する。卒業生の保護者からも話を聞く場を持つ。</p>	活動計画の実施状況	

個別の指導計画の効果的な活用	<p>【学校目標】 生徒及び保護者の教育的ニーズに応じた「個別の指導計画」を作成し実践することで、きめ細かい指導及び支援を組織的に推進する。</p> <p>①生徒一人一人の「個別の指導計画」の目標を達成するために、校内研修や事例検討を活用して、適切な支援の手立てや環境設定を考えられる教員の専門性の向上を図る。〔支援・研究課〕</p> <p>②年間教育指導計画案に基づいた授業計画を展開、検証し、より実態に合ったものにする。 〔教務課〕</p>	<p>評価指標</p> <p>①校内の希望研修を6回設定し、すべての教員が2回以上参加する。</p> <p>②放課後や長期休業中に研修できる時間を年間2回程度実施する。</p>	評価指標の達成度	総合評価 (評定)
		<p>活動計画</p> <p>①-1 事例検討や情報交換、ICT機器の活用等、ニーズの高そうな内容を希望研修として取り上げる。また、演習やポスター発表を取り入れ、参加者へのトークンシールの活用等で意欲を上げる。</p> <p>①-2 進路パスポートに関する研修を4回設定し、聞き取りのスキルアップを図る。</p> <p>②教科・領域会を計画し、各教科内での共通理解を図ったり、次年度に向けての計画や準備を整える時間を確保する。(8月、12月予定)</p>	活動計画の実施状況	
センター的機能の充実	<p>【学校目標】 専門性の向上に努め、高等学校及び幼稚園、小・中学校に在籍する発達障がい児に対し積極的な助言及び支援を推進するとともに、保護者・地域・関係機関と密接に連携し信頼される学校づくりに努める。</p> <p>①県内の高等学校等の教員を対象に、発達障がい教育に関する相談支援や、自立活動についての内容を含めた研修支援を行う。 〔支援・研究課〕</p> <p>②信頼される学校づくりのため、積極的な情報発信を推進する。 〔情報課〕</p> <p>③保護者との連携協力を推進する。在校生の保護者同士の交流を含めた活動を実施する。 〔総務・環境課〕</p>	<p>評価指標</p> <p>①外部依頼の教育相談件数35件以上、研修会等への支援回数5件以上。発達障がい教育研究会(第1回)の参加数が50人程度の予定。</p> <p>②行事等のホームページ更新数110回以上。</p> <p>③PTA通信を年間2回発行し、事業所見学保護者と子どもの活動を年間1回ずつ実施する。</p>	評価指標の達成度	総合評価 (評定)
		<p>活動計画</p> <p>①-1 県内の高等学校や関係機関に対して、ホームページ等を活用して、相談支援や研修支援について広報活動を行う。</p> <p>①-2 県内の学習支援員配置校に対して、授業参観等を実施し、指導・支援のサポートを行う。</p> <p>①-3 県内の高等学校等の教員を対象にした発達障がい教育研究会(同時開催:特別支援教育研修会)の開催形式と活動内容を再検討し、年間2回の(7月と12月に実施予定)開催に関する計画を考え実施する。</p> <p>②各課や教科担任等が、積極的にホームページを通じて情報発信できるように、ICT機器の設備を充実できるように努めるとともに、機器の使い方や発信方法等についての情報を積極的に共有していく。</p>	活動計画の実施状況	

		③PTA活動の一環として、PTA通信の発行、バザー（リサイクル制服）、事業所見学、保護者と子どもの活動を保護者の意見を反映し計画、実施する。			
特別活動の推進	<p>【学校目標】</p> <p>学校行事・生徒会活動・部活動など望ましい集団活動を通して、心豊かな人間の育成を図るとともに、交流活動を推進し地域や人と人とのつながりを大切にする態度を養う。</p> <p>①感染症対策等安全面に十分に注意を払い、学校行事を実施する。 〔特別活動・保健課〕</p> <p>②作業や交流活動を通して奉仕の精神を養う。 〔特別活動・保健課、教科担任〕</p> <p>③安全で安心できる学校づくりに努める。 〔特別活動・保健課、生徒指導・人権課〕</p>	<p>評価指標</p> <p>①感染症対策など安全面に注意を払い、みな祭り(文化祭)は公開の範囲(保護者、卒業生、旧職員)を広げて実施する。球技大会としてみなスポーツを実施する。</p> <p>②新たな授業や部活動の交流も加え、こども園や施設訪問、地域との交流を年間50回以上行う。</p> <p>③地震・津波、火災避難訓練を年間6回以上不審者対応訓練を年1回実施する。</p>	評価指標の達成度	総合評価 (評定)	
		<p>活動計画</p> <p>①生徒の実態を十分把握し、内容を精選する。また感染症対策をとりながら実施する。球技大会については実施種目や生徒の参加の仕方を検討し、運動に親しむ態度を養う。</p> <p>②環境園芸、ビルメンテナンス、福祉サービスの授業や、部活動での奉仕活動や利用者との交流を図ったり、その準備をしたりし、ホームページに活動の様子を紹介する。</p> <p>③毎回異なった想定地震・津波避難訓練4回や近隣施設(ハナミズキ・乳児院)との合同火災避難訓練2回を実施する。不審者対応訓練は講師を招いて、より実践的な研修を実施する。</p>	活動計画の実施状況		
業務改善	<p>【学校目標】</p> <p>業務改善やワークライフバランスの推進に努め、効率よく、働きやすい職場づくりを推進する。</p> <p>①ワークライフバランスの推進に努め、メリハリのある勤務体系の構築を図る。〔管理職〕</p> <p>②教材のデータベース化を図り、活用を促進することで、教材研究の効率化を図る。〔情報課〕</p>	<p>評価指標</p> <p>①年間を通してのべ45%の職員が、変形労働時間制や夏季休業期間中の時差出勤を利用する。</p> <p>②Microsoft TeamsやMetaMoji Classroomを活用して作成した教材データを構築したデータベースを令和5年度に対して、5パーセント増やす。</p>	評価指標の達成度	総合評価 (評定)	
		<p>活動計画</p> <p>①職員が利用しやすく勤務時間管理もしやすい変形労働時間制や時差出勤を計画し、活用を推進する。</p> <p>②各教科会などでデータベースの活用について研修等を行って共通理解を図り、教育内容の充実・効率化・共有化を推進する。</p>	活動計画の実施状況		